

実施日：4月～3月（通年）	
領域：総合的な学習の時間	
取組名：大観のまち守り隊！ ～ おじいさんやおばあさんの力になろう ～	
対象：第4学年	実施場所：教室ほか
<p>ア ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大観のまちの高齢者福祉に関する課題を見付け、安全な暮らしの実現には、互いのことを考え助け合うことが大切であることを理解する。 ・ 安全な暮らしの実現に向けて、見通しをもって情報収集を行う中で、得た情報を整理分析し、自分の考えを相手や目的に応じて表現する。 ・ 安心な暮らしの実現のために、他者の考えを受け止めながら活動し、大観のまちや人を大切にしたい意欲を高めて、自分にできることを考え続けようとしている。 	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <p>○ 取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人との関わりを通して他者の思いを汲み取り、より良く生活できるようにするための行動や思考を4年生の総合的な学習の時間で育むために、社会科で安心安全な暮らしの実現に向けた努力と工夫について学ぶことから始まった。本校の地域の実態に焦点をあて、地域に関わる中で、課題〔スクールガード（地域の見守り運動）のなり手の減少傾向、高齢者の体力低下に伴う生活上の悩みなど〕が明らかになった。 ・ 課題をさらに具体的に掘り下げるために、高齢者との関わり（インタビューなど）を通して分析し、解決に向けてグループで話し合い、案を出していく。 	
ウ 連携先：児童（全校生）、家庭、地域	
<p>エ 連携にむけての取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の安心安全に向けた啓発活動として、高齢者に対するメッセージを込めたお手紙などを作成した。 ・ 高齢者の体力低下の悩みについて、高齢者体験を通じて理解できたこと、これから支援できることを成果物にまとめた。 	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <p>地域の安全保全について、警察や消防の方より話を伺う中で、安心と安全は工夫により維持することができることを共通理解できるようにした。また、高齢者との関わり場を設定し課題解決をスムーズにするために、スクールガードの代表者と連携を取り合い、コロナ禍での双方向のコミュニケーションの場づくりに努めた。</p>	
<p>カ 評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成果物 ・ 意見交流会の発言 ・ ふり返り 	
<p>キ 成果</p> <p>総合的な学習の時間を経て、児童たちは一人ではできなかったことに対して周りの人（家族や地域の人々）の支えの元で実現できていたことに気づき、助けられている・守られている存在であることをふり返った。そして、自分たちは町の一員であることを自覚するようになった。そのお返しをするために、自分たちにできることを主体的に考え実践するようになった。</p>	
<p>ク 課題</p> <p>高齢者を含め、人と出会う機会がコロナ禍以降極端に減ったことで、予想と比べて人の困り感に関する実態をつかむ程度が少なかったように感じた。自分たちのコミュニティの中だけで話題を膨らましたり課題解決のための手立てを追究したりすることには限界があるため、今しばらくはインターネット通信を活用した対話の実現に向けて取り組んでいきたい。</p>	